

# 父の学校



## 「父の学校」のレポート



## 父親の影響

その一 私の父から受けた影響

ジャパン・カルバリ・クリセード主幹 福澤満雄

愛するのと愛されるのと、どちらが先なのか？「卵が先か、鶏が先か？」というのと同じで、堂々巡りだと思いますが、私の経験から言つて、愛されることが先だと思います。愛されることがなくて、人を愛することは不可能だと思いません。

聖書では、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」とあります。自分を愛するってどういうことなのでしょうか。

**酒乱だった父**

私の父は、第二次大戦のときに、ボルネオ島に赤紙一枚で出征して行きました。「日本は絶対に勝つ」と信じたのです。でも、戦争には負けました。父は、「天皇陛下のため、お国のために、喜んで命を捨てる」という思いで戦地に行つたのですが、戦争が終わり、残務整理が終つて日本に帰つたときに、父はすべての価値観を失つてしましました。

昨日まで敵だと思っていたアメリカの兵隊が、東京を歩いている。しかも、その片腕には日本の若い女性たちがぶらさがっている。昨日まで「アメリカは敵だ」と教育されていた子どもたちが、アメリカの兵隊に向かつて、「ギブ・ミー」。

母は、めちゃくちやになつた家の中

「あの戦場で死んでいった戦友たちは、何のために死んだんだろう？彼らの命は無駄死にだつたんだろうか？」

父の価値観は、何もかも失われました。父が逃げた世界は、アルコールでした。終戦直後のアルコールには、よいものはありませんでした。メチルアルコールのようなものがたくさん売られ、気が変になつたり、死んでしまつたり、いろんな問題が起きました。

父もそのアルコールを浴びるように飲み、やがて酒乱になりました。アルコールが入ると、木刀を持ち裸になつて、「わー」と叫んで京浜国道を走つていくようになります。父にとって、戦争の統きが始まっていたのです。

私は、弟妹の手を握つて京浜国道を必死に走つて逃げました。父は、木刀を持つて追つかけてくる。何回も交番に飛び込んで助けを求めました。やつと夜が明けで警官に手を引かれて家に帰ると、家中はもうめっちゃくちや。奥の部屋では、父が大の字になつて「ぐあー、ぐあー」といびきをかい寝ている。



福澤満雄師

を、泣きながら掃除をしている。

そんな中で、私たちは貧乏のどん底をはじるよう生きました。

建具は全部壊され、ガラス戸はなくななり、何もかもが破壊されていきました。

小学校の4年生くらいから、私は妹の手を引いて、よその畠のキユウリやトマトを盗むことを覚えました。駄菓子屋のお菓子を盗むことも、けつこう上手にやりました。

そんな中で中学を卒業し、社会に出て働くようになりました。ニコンというカメラ会社に就職して一生懸命働きました。でも働いても働いても、私たちの家庭は豊かになりませんでした。

ある日、アルコールを飲んで家に帰つて来た父が、丸いちやぶ台の前にドンと座ると、いつものように「酒を出せ、酒！」と呼びました。

母がうずくまるのを見たときに、私は頭の中が真っ白になつて、台所に走つて行きました。台所にあつた出刃包丁をぎゅっと握つて、「やつちやえ」と思いました。

「あのくそじいが生きている限り、福澤家は立ち上がりれない。でもあのオヤジが死んでくれれば、なんとかなる。私が刑務所に行けばいいんだ」

そのとき、小さな母が何を思ったか、台所から飛び出そとした私の首に、しづみつきました。

それから、大暴れが始まります。

その晩、父はちゃんと台の上にあったお皿を持って、放り投げました。

横浜市中区の横浜オヌヌリキリスト教会を会場に行われた「父の学校」に参加しました。6月29日、30日、7月1日のプログラムです。参加者は30数名。主に横浜および東京在住のお父さんたちですが、中には遠く静岡県や宮城県から来た方も。裏方は、数十名おられたようです。

「父親の使命」「父親の影響力」などの講義もよかったです。印象に残ったのは、「宿題」でした。家族に手紙を書きます。まずは、自分の父親に、妻に、そして子どもたちに手紙を書きます。

父親とは、生前から関係を修復しよういろいろ努力はしていたので、書くことそのものはできましたが、全体会で名指しをされて、みんなの前でその手紙を読むようにと言わされたのには参りました。結局、読みなくて、司会者に代わりに読んでもらいました。

今回改めて気づいたのは、神学校へ行

くことを父に強く反対され罵られたことになつていて、共に食事をし、洗足式をします。妻は、「足を洗つてもうよう、お皿を洗つてくれたほうがいい」という気持ちで来たようですが、夫に足を洗つてもらいながらイエス様に足を洗つもらつたペテロの気持ちを想像できたそうです。

また、夫婦が手を取り合い、顔を見つめ合つて「君は愛されるために生まれた」という歌を歌うのですが、どうも照れくさくて、私の目は宙をさまよつてもらつたペテロの気持ちを想像できたと妻は言います。

この学校のために韓国から多くの奉仕者が来られました。また、日本人の「父の学校」卒業者が多く奉仕されています。10年前に韓国のオヌヌリ教会で始まった「父の学校」は、全世界でも10万人もの卒業生がいます。

「父が生きれば、家庭が生きる！」父の学校の3日間でなんども叫んだかけ声ですが、本当にそう思います。機会があれば次の父の学校では、私も裏方になりたいと思いました。

ここで語られた「父親の影響」という講義を2度にわたつて紹介いたします。

(前島常郎)



福澤満雄師

くことを父に強く反対され罵られたことを、自分の中では解決していたつもりだったのが、意外と深い傷になつて残つてたということがあります。あれほど涙が出てくるとは予想外でした。しかし、多くの人の前で涙を流したことにより、だいぶ癒された気がしています。

私の記憶では、母が私をしつかり抱き

しめてくれたのは、あれが最初で最後だ

と思います。

私は母に抱かれた思い出とか、お母さ

んのにおいだとか、お乳の香りだとか、

そういう思い出はありません。ぬぐもり

も知りません。父と一緒にキヤツチボ

ルをした思い出もない。お風呂に行つて

背中を流してもらつた思い出もませ

ん。思い出は、暴れている父だけ。

その母が、私の首にしがみついて、耳

元で、「満雄ーー」。それだけはやめてお

くれ。それだけはやめておくれ」と、お

いおい泣きながら叫んだのです。

私はそのとき、なんで母が止めるの

か、まつたく分かりませんでした。むし

ろ協力すべきだと思いました。「満雄。や

つちやいな。あとは母さんがなんとかす

るから」「母さん、頼むぞ」と。

そのまま父にぶつかれば、全部終わる

のです。「なんで止めるんだろう?」そ

れが、母の愛だということが、ず一つと

後になつて分かるようになつたのですが、

そのときは分かりませんでした。

でも、涙にはすごい力がありますね。

母の目からぼろぼろこぼれ流れている涙

を見たときに、力が抜けて、出刀包丁が

ボトンと床に落ちたのを、今でも覚えて

います。

そんな環境で育ちましたので、愛とい

うものを頭では理解しているつもりでし

たが、あの頃の理解は、「愛、イコール

セックス」だった気がします。本当の愛

は、分かつていなかつたと思います。

本当に分かりませんでした。しかし、

日曜日の夜になると教会に足が向きました。酒を飲んでいる父を見て、いるより

は、教会に行つたほうがいい。教会に行

けば、おいしいクリスチキやお茶が出る。

話は分からぬけど、その茶菓につられ

て行つていた気がします。

いました。

「皆さん、イエス様は、皆さんの代わりに十字架について死んだんですよ」

そう言つたまま、牧師は下を向いて黙つてしましました。

「どうしちやつたんだろう、先生血圧上がつたのかな? 説教忘れるわけないよな、毎週同じようなことしゃべつてるんだから」

しばらく下を向いていた先生が上を向

## 愛することが恐怖

2000人もの従業員がいるニコンといふ会社で働きましたが、中学しか出ていない私は、現場で、旋盤など機械を使つて油だけになつて働きます。ところが、高校や大学を出した人たちとは、ホワイ

トカラーラーで、机に座つて悠然と仕事をしています。「学歴の違いつて、こんなに違うんだ」と思いました。

事務所のほうを見ると、高校や大学出の着飾つたきれいな女の子がいっぱい

が、高校や大学を出した人たちは、ホワイ

トカラーラーで、机に座つて悠然と仕事を使つて油だけになつて働きます。ところ

で、高校や大学を出了した人が、ホワイ

トカラーラーで、机に座つて悠然と仕事をして油だけになつて働きます。ところ

が、高校や大学を出了した人が、ホワイ

トカラーラーで、机に座つて悠然と仕事を

ます。

一度でいいから、ああいう女の子とデートしてみたいなあ。一度でいいから喫茶店に行って、彼女と何か飲んでみたまゝ。1杯のカルビスにストロー1本入れてチューッと吸つたら広告のように初恋の味がするのかな。勇気を出してデートを申し込もうか、ラブレターを書いていやおうか

でも、そういう思いと自分の行動と

は、まつたく違うのです。どんどん距離

がきてしまう。愛された経験がない

と、愛するつていうことが分からぬ

です。

愛されたいという欲求は強烈です。愛

されないで少年時代を過ごした子どもの心には、空洞があります。この空洞は、誰かに抱きしめられて、耳元で「アイ・ラブ・ユー」と言われたときに埋まるといふことは、自分ではよく分かっています。でも、自分から「アイ・ラブ・ユー」とは言えない。なぜなら、愛を告白したときに、「ダメよ」と言われて肘鉄を食

らつて、またかさぶたが取れて傷口が広がるという恐怖です。

私にとって、愛することは、恐怖のほ

うが強かったのです。

「宗教と仕事は関係ないだろう」と思張つてありました。

とき、会社の掲示板に一枚のポスターが

「すべて疲れた人、重荷を負つている人は、わたしのところに来なさい。わたし

しがあなたがたを休ませてあげます」

イムカードをガチャンと押して出てきたとき、会社の掲示板に一枚のポスターが

「すべて疲れた人、重荷を負つている人は、わたしのところに来なさい。わたし

しがあなたがたを休ませてあげます」

張つてありました。

イムカードをガチャンと押して出てきた

とき、会社の掲示板に一枚のポスターが

「すべて疲れた人、重荷を負つている人は、わたしのところに来なさい。わたし

しがあなたがたを休ませてあげます」

んですよ

「はい、分かりました」

その先輩が「田中庄治です、よろしく

と言つただでなく、「僕は、クリス

チヤンです」と言つたのです。

「宗教と仕事は関係ないだろう」と思

いました。この田中さんは、食事が終

った。田中さんは、食事が終

った。田中さんは、食事が終